

ときめき きらめき いきいきを伝える

広報



Seki

2018
12
No.1694

特集

平成

TOPICS

- 年末年始業務のご案内…P6
- お知らせ…P20~24
- 文化会館／図書館…P25
- しあわせヘルスだより…P26, 27



(平成元年) 1989



1 三田佳子さんの訪平成に、湧き上がる町民
3 東京のデパートでも、飛ぶように売れた「平成クッキー」

2 平成の入り口に、急ぎよ立てられた看板
4 特産のしいたけを持参して、小淵官房長官を表敬訪問

H15

H10

H5

H元

新元号「平成」と同じ地名「平成」が、武儀町内に存在することが、日本中に知られたる

「日本平成村」立村
女優の三田佳子さんが村長に就任

平成ふれあいドーム完成

日本平成村花街道センター・エコピアセンター完成

平成自然公園（モニュメントの森）完成

道の駅「平成」が登録される

日龍峯寺が県重要文化財に指定される

武儀生涯学習センター完成

9・15災害 集中豪雨で各地に被害

国勢調査で、武儀町が日本の人口重心地となる

武儀町制施行30周年を迎える

カローリングジャパンカップが初開催

武儀東小学校・武儀西小学校開校

関市・洞戸村・板取村・武儀町・上之保村・武芸川町合併調印式が行われる

集中豪雨災害（雁曾礼・武儀倉・水成）

関市へ編入合併

高澤観音で「ムーンライトコンサート」が初開催

昭和から平成へ

新しい年号が『平成』と定められたのは、今から30年前の1月7日。当時の小淵官房長官が『平成』の文字の書かれた色紙を高らかに上げる様子がテレビで発表され、武儀町の平成（へなり）地区の人々は、「自分たちが住んでる場所と同じ字やないか」と思ったそうです。全国で唯一の同じ漢字の地名、武儀町平成（現・関市下之保平成地区）この後訪れる、平成の大フィーバーの幕開けです。

翌日より新聞社、テレビ局各社のみならず、全国からこぞって、平成とはどんな場所なのかと思いを巡らせる人々が、わずか35人の集落に押し寄せました。1日で千台の車が列を作り、交通整理や駐車場の確保に奔走したり、記念になるお土産として、平成の名を記したテレホンカードや、しいたけクッキーなどを販売すると大盛況だったり、武儀町は、一躍全国に名を馳せる場所になりました。

これを機に『地球でいちばん素敵ないなかま』をキャッチフレーズとして、日本平成村を立ち、女優の三田佳子さんを村長に迎えました。平成の訪れとともに、元号橋の竣工、道の駅平成（※当時の日本平成村花街道センター）の完成など、武儀町の新しいまちづくりも着々と進んでいきました。

その後武儀町は、平成17年に関市と合併することになり、その歴史に幕を閉じます。しかし、合併から10年以上経った今でも、平成の始まりに人々が願った「あるがままの美しい自然と共に生きるまち」の姿を残し続けています。

特集 平成 —「へいせい」と「へなり」—



5 「道の駅平成」のサンクスボードの前で記念撮影する武儀東小の児童

H30

H25

H20

「しあわせの気の森」オープン

7・25 武儀集中豪雨災害

津保川診療所オープン

武儀やまゆり保育園開園

津保川中学校開校

国勢調査で、武儀地域が三度目の日本の人口重心地となる

平成30年豪雨

「ありがとう！平成時代」イベント開始

2018 (平成30年)

《平成元年》 年号と同じ字で、びっくりこいた



当時の“平成フィーバー”を平成の田畑さんへなりに振り返ってもらおうと、

「全国から人が集まってきて、報道関係者と観光客合わせると、1日最高1,000台の車が来たことが、一番印象深いなあ。平成へいせいが終わるのは寂しいけど、平成へなりはずっと残るもんな。」



田畑和義さん



関市下之保平成地区。合併前の武儀町の時に、新元号「平成」と同じ日本で唯一の場所として、全国的に注目される。平成地区の一部（関市消防団ドローン部隊撮影）

平成へなりで振り返る平成へいせい



平成

[PLACE]

望郷



《平成30年》 30年後同じ場所で

30年前、35人が暮らしていた平成も、現在は、移住者の伊藤璃々子さん5歳から、最高齢90歳の長谷部宮雄さんの17人に。今回も、全員集合は叶わなかったが、平成が終わりを迎える今年、30年前と同じ場所で記念撮影。



《上写真・武儀生涯学習センターにて「國光さん撮影」》



写真でしか見えない世界を表現したい

國光 智雅さん

(平成13年生まれ 17歳 下之保)

武 儀の自宅から見える星空が、一番のお気に入り。でも、目で見える星空には限界があるので、写真でしか見えない景色も知ってもらいたいです。写真を撮始めて約2年、「星空」というジャンルに足を踏み入れて、1年足らずとは思えない写真の知識や技術は、全て独学で学んだそうです。今年、初めて天文雑誌に応募した『はくちよう座散光星雲』の写真が、見事入選。

将来の夢を「写真家」と語る國光さんの瞳は、写真と同様に真つすぐできれいでした。



丹羽 哲士さん

(平成5年生まれ 25歳 下之保)

彫ってる瞬間って、すごく楽しい

た だの丸太がチェーンソーのみで、木彫刻へ変化する。「ダイナミックなチェーンソーアートは、ショーとしても魅了できるエンターテインメント!!」と、熱く語る丹羽さん。5年前、繊細な作品が作れることに心奪われて、独学で勉強。人脈も増え、仲間と切磋琢磨した結果、今年の国内大会で見事優勝するほどの腕前になりました。大会2連覇が当面の目標ですが、将来の夢は、国際大会のチャンピオンになると世界を見据える丹羽さんは、屈託のない笑顔が似合う好青年です。

平成から新時代へ

新しい時代は、平成に生まれ育った若人が飛躍するとき。自分の力で未来を切り開いてく若者の姿に、次代の幕開けと将来への期待を重ねました。